

国語教育 214

☆ 東京都小学校国語教育研究会・機関誌 2019. 2

「主体的・対話的で深い学び」は、まず教師から

副会長 大久保 句子

都小国研にお世話になり、二十五年が経ちます。東京都の教育研究員を終え、研究すること、学ぶことの楽しさを味わい、この先も国語の勉強を続けたい。どこか学ぶ場所がないかと探していたところ、区の国語部の先輩から、「都小国研という研究団体があるから一緒に勉強しない?」とお声をかけていただきました。その当時は、気軽にに入る研究会ではなく、区の推薦や紹介がないと入れず、入れていただいたからには、しっかりと勉強しなくてはという思いで毎回の研究会に参加していたことが思い出されます。入ったころは、何もかもが新鮮で、先輩の先生方の実践を聞き、自分のクラスでもやってみようと試みたりしたものでした。通常の研究会（全体会）は、勤務時間内からの始まりでしたが、分科会は、常に十八時から。当時勤務していた学校は、交通の不便な場所にありましたので、研究会場まで一時間以内で行けることはほとんどなく、時には二時間もかかる会場もありました。しかし、時間をかけても惜しくない。むしろ、行くのが楽しみで仕方がありませんでした。担当の校長先生方もお忙しいにもかかわらず、足をお運びいただき貴重なご指導をいただきました。こうしたら、ああしたらと話が尽きることなく、気が付くと十時を回っていたなんて言うこともありました。

そんな経験から、自校の教員には、「どんどん、外へ出て勉強していらっしゃい。」と進めてはいるものの、日々忙しく、年々外部の研究団体に所属する先生方が少なくなっているのがとっても残念です。

さて、今年度の研究副主題は、「主体的・対話的で深い学びが育つ单元づくり」です。教師自身が、「主体的・対話的で深い学び」を体験してはいかがでしよう。校内を飛び出し、東京都の様々な地区の先生方と、語り合い、学び合つて授業づくりをすることで、「主体的・対話的で深い学び」を実感してほしいと思います。そして、都小国で学んだ事を、自分自身のものとするだけでなく、自分の学校の仲間に、区や市の先生方に、伝えていただきたいと思います。都小国研は、先生方一人ひとりの授業力を向上させるのみならず、最先端の国語教育を広く伝える役目も担っているのです。

現在、顧問参与の先生方、約一四〇名。役員、約四〇名、会員、約二〇〇名で活動しています。もっともつと、共に学ぶ仲間をふやし、東京都の国語教育を充実、発展させていきたいものです。

（新宿区立花園小学校長）

書くこと部

児童の深い学びを目指す、
主体的・対話的な書くこと
の単元づくり

研究部長 風澤 明子

一 研究主題について

本部会では、「児童の言葉の学びは、児童の思いから発動される学習活動を通して成立する。」という考えに立ち、研究を進めてきた。単元づくりでは、児童の生活

に根差し書くことのよさを個々の

生活の中で実感できるような題材

を工夫してきた。また、相手意識・

目的意識を明確にした単元を構想してきた。これは、「書くことが

楽しい」「よりよい文章にしたい」「読んでもらえてうれしい」「また書きたい」という主体的に書く児童の姿を目指してきたからである。

そこで、本部会では、これまでの研究をさらに発展させるために、

全体的研究主題を受け、部の研究

主題を右の通り設定した。書く過程において、主体的に書く姿や、児童が自分と対話したり友達と語り合つたりする対話的な学びの姿の実現が、自分の書く力の成長を

方を深めることにつながると考へる。特に、今年度は、深い学びを目指し、系統性をより意識した指導に研究の焦点を当て、①構成から記述への指導の工夫②文学的文章を書く活動を通じた指導の工夫を進めてきている。これらを踏まえ、児童の思いや思考と、教師の願いや指導が両輪となつた単元づくりを通して、深い学びとしての書くことの実践を重ねていく。

二 研究の内容

◇単元づくりの工夫

①児童と単元との出会いに関する「0次」の設定

②児童の思考に応じた行き来ができる「柔軟な学習過程」の設定

③児童の作品の「実の場での活用」

◇指導と評価の一体化

①学習計画や振り返りの活用による「児童の課題意識の明確化」

②児童一人一人に応じて指導や支援を行う「指導者の評価の工夫」

三 研究組織

部長 風澤 明子(葛飾・南綾瀬小)
副部長 豊田 純子(足立・中川東小)
同 小池 隆一(中野・上高田小)
同 渡辺 裕之(千代田・和泉小)

授業者	六学年	薄 美歩教諭	○高学年分科会研究授業	11・21	「練馬・光が丘春の風小」
世話人	高学年	成家 雅史(東京学芸大附小金井小) 武井 二郎(台東・上野小)	○中学年分科会研究授業	12・3	「北・稻田小」
	中等年	吉田 知美(渋谷・渋谷本町学園) 尾久由有子(足立・長門小)	授業者	三学年	笛木望美主任教諭
	高等年	吉田 知美(渋谷・渋谷本町学園) 尾久由有子(足立・弥生小)	研究部会	二学年	清水絵里主任教諭
	庶務	田中 瞳(足立・赤羽小)	低・中・高学年分科会を設定し、 それぞれ小研にて授業研究を行う。	12・13	(港・赤羽小)
	研究大会	都小国研顧問 成家 巨宏 先生	研究大会にて、全体提案、授業及び分科会提案を行う。	12・26	「葛飾・南綾瀬小」
	五年間指導講師	5・10 研究委員総会	大会指導案検討・発表資料作成	2・21	「港・高輪台小」
	研究計画	5・28 研究主題・研究計画の検討	大会前日準備・リハーサル	2・22	「港・高輪台小」
	研究計画	6・19 講演 成家 巨宏 先生	○研究大会	1・21	「港・赤羽小」
	研究計画	7・21 提案 伊藤 浩平(墨田・押上小) 成家 雅史(東京学芸大附小金井小) 松江 宜彦(中野・白桜小) 高橋 孝嘉(足立・千寿本町小)	一学年 清浦 夕樹教諭 (港・赤羽小)	1・21	「港・赤羽小」
	研究計画	7・30 講演 成家 巨宏 先生	二学年 河原麻利子主任教諭 (東久留米・第一小)	2・21	「江東・第三天島小」
	研究計画	7・30 研究授業事前研修(分科会) 講演 成家 巨宏 先生	三学年 望月 美香主任教諭 (中野・白桜小)	3・26	「葛飾・南綾瀬小」
	研究計画	7・30 提案 吉田 知美(渋谷・渋谷本町学園) 尾久由有子(足立・長門小)	五学年 松江 宜彦主任教諭 (中野・白桜小)	3・26	「葛飾・南綾瀬小」
	研究計画	7・30 提案 吉田 知美(渋谷・渋谷本町学園) 尾久由有子(足立・長門小)	中学生 年	3・26	「葛飾・南綾瀬小」
	研究計画	7・30 提案 吉田 知美(渋谷・渋谷本町学園) 尾久由有子(足立・長門小)	高学年 吉田 知美(渋谷・渋谷本町学園) 尾久由有子(足立・長門小)	3・26	「葛飾・南綾瀬小」

読むこと部

主体的・対話的で
深い学びとなる

読むことの単元づくり

研究部長 古谷 勉

一 研究主題について

読むこと部では、読むことの指導を通して身に付けさせたい実生活や生きる言葉の力を「以後の学習や生活の場でも活用し、自分の考えを形成できる状態に近づいていくこと」と捉えた。この力を習得させることを「深い学び」と考え、その実現のために、主体的・対話的な学びの組み合わせ方や設定の仕方を工夫することなどを研究の柱とした。

(1) 主体的・対話的な学びを実現する工夫

学習過程や言語活動への見通しをもつことができるようになり、児童がより明確に学習の目的や交流の良さ・必要性を感じながら学習を進められるようになる。

(2) 深い学びを実現する工夫

学習材の特徴、子供の思考の流れを考慮して学習過程及び学習課題を計画する。その際、以下の点に留意する。

- 児童が対話・交流する必要性を感じられるような学習課題を設定すること。
- 蓄積してきた考え方やおさえた叙述等をまとめられるような学習活動を位置づけ、深い学びにつながるようにすること。
- 同じ、あるいは関連する学習課題を三次に設定し、獲得した力を活用しながら、他の学習材を読み取つたり同じ学習材を捉え直したりし、自分の考えが形成できるようにすること。

(3) 付けたい力の明確化

単元で付けたい力を、学習活動に即した具体的な評価規準にまで結びつけて指導者が理解すること。また、付けたい力を確実に獲得できるような学習課題や学習活動を設定すること。

三 研究方法

全体会及び低・中・高学年分科会を設定し、研究大会に向け、講演会及び三回の授業研究を行い、大会授業の充実に努める。

四 研究組織

部 長 古谷 勉(新宿・余丁町小)
副部長 守田由紀子(品川・源氏前小)
小池 智彦(練馬・大泉学園小)
石井 正美(大田・矢口西小)

総務主任 海沼 秀樹(板橋・志村第六小)
秘書主任 吉田 未希(江戸川・平井小)
研究主任 生井 正芳(北・桐ヶ丘郷小)
研究副主任 田村香代子(杉並・高井戸小)
庶務 大熊 啓史(板橋・板橋第五小)
世話人 福山 貴司(新宿・落合第一小)
小黒 靖子(調布・緑ヶ丘小)
市川明日香(江戸川・西小岩小)
小寺 里加(江戸川・西小岩小)
小松 沙織(練馬・泉新小)
市川明日香(目黒・中根小)
大田 矢口西小

○11・26 新宿・牛込仲之小
授業者 小西理恵教諭
講師 岸本 修二先生

○12月～2月 研究大会事前研究、大会授業。

○2・22 研究大会 発表内容の検討

○2・21 港・高輪台小 研究発表準備・リハーサル

○2・22 研究大会 港・高輪台小 研究大会授業者

○5・10 研究委員総会 三年 研究主題・研究内容・方法の検討

○6・28 新宿・余丁町小 三年 研究主題・研究内容・方法の検討

○7・17 新宿・余丁町小 三年 研究主題・研究内容・方法の検討

○9・11 新宿・余丁町小 六年 各分科会の指導案検討

○10・9 目黒・中根小 六年

○10・30 世田谷・喜多見小 六年

「言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす
単元づくり」

研究部長 小川 和美

一 研究主題について

言語部では、研究主題を「言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり」と設定し

言語部では、研究主題を「言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり」と設定して二年目となる。平成二十八年度までの「伝統的な言語文化」に関する研究成果を踏まえつつ「我が国の言語文化に関する事項」における学習材の開発、单元化を中心とした取り組を行ってきた。

(一) 児童の言葉に対する興味・関心や学習への意欲を高められるよう、児童の日常生活や身近な生活文化の中から素材を見付け、学習材として練り上げる。

(二) 単元構成を「出合う」「親しむ」「生かす」の三段階とし、

言葉についての認識を深めびを通して児童が言葉と関わり、言語感覚を養つて、自己の言語生活に生かすことを目指している。

言葉には特徴や使い方があり、

様々な働きやよさがある。それらを児童が認識することを言語部では、「言葉への気付き」「言葉に親しむ」の二つの段階と捉え、以下のように定義し、研究を進めるこ

ととした。

「言葉への気付き」課題意識をもつて身近な言葉と出合うこと

「言葉に親しむ」言葉と出合い、使つたり調べたり考えたりする」と

るとともに単元構造図を作

成し、全体像を明確にする。

四年・北原亞紀教諭
(府中市立府中第一小学校)
講師 今村久二先生

(四) 実践報告のない学年について
ては、「授業実践アイディア集」を作成・提示し、「言葉」

と
に
関
わ
る
実
践
を
促
進
す
る。

二 研究の内容

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」における学習材の開発、

单元化を中心とした取り組を行ってきた。

(二) 児童の言葉に対する興味・

関心や学習への意欲を高められるよう、児童の日常生活や身近な生活文化の中から素材を見付け、学習材として練り上げる。

三 研究組織

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

部長	小川 和美	(葛飾・高砂小)
副部長	岡本 賢二	(中野・西中野小)
世話人	井口美由紀	(新宿・富久小)
	細谷俊太郎	(渋谷・富谷小)
	宇賀村康子	(文京・誠之小)
	本村 文香	(三鷹・大沢台小)

まなび塾報告

副会長 増田 好範

七月二十一日（土）、墨田区立両国小学校を会場に、恒例のまなび塾が開催されました。

参加人数、二百四十名。午前午後を一組とした十コース・二十講座を設け、本会の顧問・参与の先生方が分担して講師を務めてくださいました。

外は真夏の炎天下。どの講座も外の暑さに負けないくらい、熱い学びが繰り広げられました。

【Aコース】

午前：音読・朗読指導を取り入れた読むことの単元の工夫

午後：進んで書くようになる単元開発（書くこと部の実践報告）

【Bコース】

午前：語彙を豊かにする授業づくり

午後：子供の発言の整理の仕方と学ぶ力の定着を図る指導の工夫

【Cコース】

午前：論理的に考え表現する力を育てる単元づくりや指導の工夫

午後：苦手な子が喜んで書くよう

になる指導の工夫（書くこと部の実践報告）

【Dコース】

午前：話合いや交流のさせ方――

「対話的学び」を見据えて――（話すこと・聞くこと部の実践報告）

午後：書く意欲を高める指導

【Eコース】

午前：話すこと・聞くことの題材や単元づくり（話すこと・聞くこと部の実践報告）

午後：説明的文章の教材研究の進め方と指導の工夫

【Fコース】

午前：進んで書くようになる単元開発（書くこと部の実践報告）

午後：「主体的・対話的で深い学び」の単元づくり「説明的文章」（読むこと部の実践報告）

【Gコース】

午前：文学的文章の教材研究のコツと単元づくりの工夫

午後：語彙学習の機会と場を生かす国語教育（言語部の実践報告）

【Hコース】

午前：子供が主体的に読み深める物語文の単元づくり（読むこと部の実践報告）

午後：言葉遊びや俳句、短歌などに親しみ、言葉の力を育てる指導

【Iコース】
午前：説明的・論理的文章の書き方と指導の工夫

午後：話すこと・聞くこと部の実践報告

【Jコース】

午前：子供が主体的に読み深める説明的文章の単元づくり（読むこと部の実践報告）

午後：コミュニケーション力を育てる話すこと・聞くことの指導

各講座、講義のみならず、都小国研四部会の実践報告やワーケーションなど、多彩かつ実践的な内容で一日の研修が行われました。

受講生の内訳は、「教諭・養護教諭」は全体の六十六%、「主任教諭・主任養護教諭」が二十八%、経験年数は平均が八・四年で、四年目までが三十四%をしめしていました。

参加については、「案内を見て参加」が四十五%、「管理職や先輩等に勧められて参加」が三十五%でした。受講した満足度は、八十

九%と、多くの方が満足してお帰

りになりました。以下、受講者の声を紹介します。

《感想》

- ◆具体的で分かりやすかった。試してみたい内容だつた。
- ◆自分自身の言語感覚や語彙力を振り返る貴重な機会になった。
- ◆講師の先生方の経験豊富な話が勉強になった。
- ◆自己自身の言語感覚や語彙力を具体的に教えてもらえたのがありがたかった。
- ◆実践的な内容とともに、指導のポイントを具体的に教えてもらえたのがありがたかった。
- ◆ワークショップ形式で活動が多く、自分でやってみることで「なるほど」と実感できた。
- ◆他のコースの資料も入手できるとありがたい。
- ◆各コースの実践内容の学年が案内の段階で分かると選択しやすい。
- ◆他のコースの資料も入手できるとありがたい。
- ◆一部抜粋させていただきました。うれしい声がたくさん寄せられましたが、ご要望も寄せられました。
- ◆次年度に向けて、できるだけご要望に応えられるよう、更なる実施方法と内容の充実を図つてまいりたいと思います。
- ◆結びになりましたが、ご多用の中、資料等をご用意いただき、講師をお引き受けいただいた顧問・参与の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成三十年度 都小国研

多摩地区総会・研究大会報告

副会長 伊藤 浩介

多摩地区研究会では、例年、都小国研総会後、多摩地区の総会・研究大会を開催している。

平成三十年度は、五月三十一日

(木) 東村山市立八坂小学校を会場にして行った。

一 多摩地区総会

都小国研の諸先輩方も多数ご参

会の中、議事を円滑に進行することができた。

・平成二十九年度の研究主題に沿った各研究部の月例会や研究授業等の研究活動、普及啓発活動としての「多摩まなび塾」の開催についての報告

・平成三十年度の役員承認、多摩地区会長・役員、事務局の挨拶

・都小国研の研究主題「未来を拓く国語教育の創造―主体的・対話的で深い学びが育つ单元作り―」に沿った、多摩地区における研究活動の計画についての提案と承認

よう研究を進め、多摩地区各支部に還元することを確認した。

二 研究大会

(一) 研究授業公開

本校 西岡 明美教諭が、日頃の研究の成果を生かし、研究授業

「時間との付き合い方マニュアルを作成して生活に生かそう」(教材名「笑うから楽しい」中村 真誠 光村図書) (第六学年)を行った。

筆者の考え方を読み取る力を身に付けさせるために、自分の『時間との付き合い方』マニュアルを作

るというゴールを見通し、一単位時間ごとに身に付いた力を明確にさせる。目的意識をもつて論説文を読み、完成したマニュアルの意見交換を行う提案がなされた。

(二) 支部の研究発表 (東村山市)

毎年、多摩地区支部の研究発表会を開催し、本年度は東村山市立

秋津小学校 河野 直子主任教諭他から東村山市教育研究会国語部会の現状報告があつた。

本年度は研究主題として「主体的に読む子供の育成―自分の思いや考えをもたせる指導方法の工夫

」を掲げ、特に対話的に学ぶ具体的な方を、一丸となつて追究している。

三 研究協議

研究授業に即し具体的な議論をいただいた。

・話し合いの結果「何かが生まれた」「考えが深まった」「見方が広がった」「意見の共通性・相

違点が確認できた」「考えの間違いを修正できた」学習を行った結果、話し合うよさが分かることが大切。

・これを経て、自分の経験と筆者の考え方を照らし合わせて読むことが大切。

・小学校期に「内容」「主張」「文章の構造」を読むことを身に付けてさせ、自分から表現することへつなげたい。等の議論がなされた。

【書きこと部】

定例会月一回、研究授業年一回
月 日・二月一日（金）

会 場・小平市立小平第十一小学

授業者・小島 千恵子教諭
(第一学年)

講 師・成家 宣宏先生

【読むこと部】

定例会月一回、研究授業年二回
①月日・十一月二十六日（月）

会 場・立川市立第五小学校

授業者・加藤 直美主任教諭
(第三学年)

講 師・富山 哲也先生

講 師・井出 一雄先生
(第四学年)

②月日・二月十八日（月）

会 場・府中市立府中第二小学校

授業者・田邊 美由紀主任教諭

講 師・井出 一雄先生

四 第十回多摩まなび塾

日 時・十一月三日（土）（祝日）

午前九時十五分～正午

会 場・東村山市立東萩山小学校

内 容・三領域の授業実践講座

講 師・遠藤 真司先生

細川 太輔先生

井上 紗子先生

網 淑子先生

支部だより

目黒区小学校部門研究会国語部会
研究主題
「思考力・表現力及び探究力を高める指導法の工夫」

目黒区では年間三～四回の研究授業と、十月に実技研修会を行います。分科会は、部員の希望に応じてグループ編成を行い、今年度は、読むこと部（低・中・高）、書くこと部、書写部の五分科会に分かれて研究を進めました。

七月の小・中合同の研究授業では、五年の教材「見立てる 生き物は円柱形」を使って、「筆者の考え方の進め方をとらえ、自分の考えをもたせ考え方を深める交流の工夫に取り組みました。

十一月は、三年の教材「すがたをかえる大豆」を使って「発見

食べ物のひみつ！へんしんカード

を使つてまとめよう」という単元名で、全文シートやへんしんカードの活用により構成や工程を正しく読み取らせる工夫を行いました。

十二月は、教師道場の授業公開でした。二年の教材「しあけカードの作り方」を使って、「分かりやすいせつめい書を書くためのくふうを見つけよう」という単元名で、サンプル文の効果的な活用に取り組みました。

来年度は、次期学習指導要領を考慮した研究主題を新たに設定し、これから国語科に求められる授業改善を目指してまいります。

青梅市小学校教育研究会国語部会
研究主題
「子供一人一人の学力向上を目指して」

「主体的に学習に取り組み、思考力、表現力を育てる指導法の工夫～物語教材をとおして～」

新しい学習指導要領が告示され、今年度から移行期間となつた今、い学び」の実現に向けた授業改善

が求められています。

本市国語部では、児童が主体的に語や文に向き合い、友達との交流を大切にしながら学習していく流れを大切にしながら学習していくには、一人一人が言葉によつて自分の考えを表し、言葉で伝え合う、言葉で振り返る力が必要であるとし、交流活動を通して言葉の力を育てていくことが、子供一人一人の学力向上につながつていくと考え、研究副主題を設定しました。

本市では研究主題にせまるために、低・中・高のブロックで系統的な交流活動について話し合いを重ね、年三回の研究授業と夏季研修会を行つてきました。授業後の協議会では、主に交流活動に焦点を当てた意見交換を行い、年間講師の河村静枝先生（東京都小学校国語教育研究会参与）から御指導を受け、課題を明らかにし、さらなる授業改善に取り組んでいます。

また、自主的な学習会を設けたり、日々の実践を交流し合つたりしながら、個々の指導を振り返り、新しい指導法を学び合い深めています。

千代田区立和泉小学校

渡辺 裕之

編集後記

今年度は二月二十二日に港区立高輪台小学校にて、第二十九回研究大会が行われます。

この一年間、新学習指導要領

の国語教育を見据えて、各研究部での「小研」を充実させながら研究・実践を深めてきました。

研究大会では、小研での成果を生かしながら、研究主題「未来を拓く国語教育の創造―主体的・対話的で深い学びが育つ单元づくり」のもと、三年間の集大成として、各部による授業公開・研究発表が行われます。とりわけ、「单元づくり」「学習過程の工夫」「指導と評価」を研究の核に据えた報告は、実生活に生きて働く言葉の力の育成を目指したもので、より実践的な発表になるものと捉えています。

次年度は、いよいよ移行期間の最終年度を迎えます。研究大会における発表はもとより、大会の研究紀要を多くの先生方が手に取り、新学習指導要領の全面実施に向けた準備に生かしていただくことを願い結びといたしました。